

南紀高等学校

実施日時	令和3年4月16日（金）～11月5日（金）
参加者	生徒145名、教職員48名、地域住民等0名 計193名（延べ人数）
実施内容	地震シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所運営訓練、 救急救命講習、映像視聴 等

ねらい

1 実施形態

定時制昼間部、定時制夜間部の課程別にそれぞれの生徒の実態に即した実施形態とするため、特定の日に絞らず、複数回に分散して実施。生徒指導部を中心に担任や関連教科の教員が担当を分担する形式で準備を進めた。

2 使用教材

NHKスペシャル「もしも南海トラフ巨大地震が発生したら」をもとに担任用資料を作成。
世界津波の日パンフレット等

2 11月2日（火）

NHKスペシャル「もしも南海トラフ巨大地震が発生したら」を視聴後、巨大地震を想定したシェイクアウト訓練及び避難訓練を実施。その後、体育館での避難所運営訓練を行い、発電機による照明点灯やパーテーションで個室の作成を体験。 生徒61名

3 11月4日（木）

災害時の自衛行動や防災避難グッズについて学習。避難経路について実際の道路や家屋の写真を用いて危険箇所の確認。生徒13名

4 11月5日（金）

田辺市消防本部による救急救命講習を受講。映像視聴後AEDの使用法、胸部圧迫法、止血法等を学習する。 生徒57名

主なプログラム

- 避難訓練（夜間定時制）
- 避難訓練及び避難所運営訓練（昼間定時制）
- 防災LHR（夜間定時制）
- 救急救命講習（昼間定時制）

概要

1 4月16日（金）

大地震後の停電と津波を想定し、屋上への避難及び担架による搬送訓練を実施。夜間定時制の活動時間を踏まえ、暗闇の中を懐中電灯や携帯電話で照らしながらの避難を試みた。その後、2次避難場所への経路及び備蓄品貯蔵庫を確認。 生徒14名

参加者感想文

- ・担架で大人一人運ぶのに、8人も必要だと思わなかった。
- ・ハザードマップをきちんと見たことがなかったので、危機感を持った。
- ・救急救命では、周りの人と協力して、自分のできる限りのことをしようと思った。
- ・体育館などへ避難した後、ここで何日も暮らすのかと思うと、避難してからが大変だと思った。

成果と課題

【成果】

- 地震や津波への対応についてしっかりと考えさせることができた。
- 夜間に発生した地震や津波への対策に再認識し感想を共有することができた。
- 映像視聴は15分～20分程度が集中するには適当との判断で、いくつかの事例について活用できた。
- 避難所運営訓練の実施に伴い、避難所としての物品の確認をしたり、発電機等の使用方法を確認できた。

【課題】

- 定時制昼間部、定時制夜間部、通信制田辺学級、通信制新宮学級で防災学習を一齐に実施する機会として、学校祭での学習発表などとも組み合わせながら、生徒の実態に応じた防災学習を3部課程で計画的、段階的に進めていく予定であったが、学校祭の内容変更に伴い実現には至らなかった。
- 在宅中や登下校中における各自の避難経路の認識や避難マップの作成など、具体的で実践的な学習内容の充実を図りたい。
- 消費期限が迫っているアルファ米の試食を考えていたが、コロナ禍で調理を断念した。今後は、感染状況によるが、消費期限を迎えるまでに、非常食を作り試食する活動を取り入れたい。
- 避難所運営を体験し、被災後の生活は長くなるため、社会制度や補償制度について深められるような取組を考えていく必要がある。
- 以前昼間部で好評であった「ごりょうくんの地震体験」を今年度夜間部で計画していたが、コロナ禍により実施できなかった。次年度は夜間部生徒に体験させたい。

防災学習の様子



避難所運営訓練
(発電機による
照明点灯)



避難所運営訓練
(パーティションで個室作成)



理科教員講話
の様子



救急救命講習
(AED使用法)



救急救命講習
(心肺蘇生法)